

報 告 書

(委員会名) 総務民生常任委員会
(視察日) 令和7年10月22日(水)
(視察先都市名) 石川県志賀町
(視察項目) 能登半島地震における被害と対応について
(内容) 報告者 高城庄佑

- 1 能登半島地震における被害状況及び対応について
 - (1) 被害の状況<志賀町>

震度7、大津波警報発令
死者24人(うち災害関連死22人)、重軽傷116人
全壊 2,409棟、半壊・一部損壊等14,646棟
仮設住宅世帯 499世帯(令和7年9月末時点)
詳細は資料参照
 - (2) 分野別の被災状況
資料参照
 - (3) 避難状況
資料参照
 - (4) 応急仮設住宅
資料参照
 - (5) 公費解体
災害ごみ仮置き場として富来野球場駐車場及び中学校グラウンド
富来野球場は午後現地視察 詳細は資料参照
 - (6) 復興計画
基本理念は『かえる、志賀町』
人が帰る、元に返る、まちを変えるの意 詳細は資料参照
- 2 事前質問について
 - ①地震発生直後の初動対応について

通信環境、電源に大きな被害はなかった

防災無線、ケーブルテレビ、メール、公式ラインのほか、広報誌などありとあらゆる紙媒体で配布した。

水道が止まっていたため毎日メールや公式ライン等で広報した。

今後の課題としてはメールやラインの登録者を増やすことや、スマホ教室を実施していくことが挙げられており、既に登録者においても大幅増で、スマホ教室も定期開催されている。

②避難所の設置・運営体制と要配慮者対応について

公民館では区長を中心として区と民間が連携して運営していたが、地域交流センター及び富来活性化センターにおいては、トップになる人がいなく、まとまりがなかったため、対口支援として来ていただいた愛知県職員には大いに助けられた。

また、愛知県職員には避難所運営のほか、夜間警備や清掃などもしていただいたが、愛知県職員が去ったのちは民間委託された。

福祉避難所にはコロナ等感染症患者を受け入れてもらった。

2月末で福祉避難所は閉鎖したが、残っていた避難者は指定避難所で受け入れてもらった。

JMATなどボランティアの医療チーム等にアドバイスを受けながら、ベッドの配置等整えた。

③ボランティア・外部支援の受け入れ態勢について

県の機関や社会福祉協議会らと連携して受け入れた。

課題としては、ニーズと支援のマッチングに労力及び時間を要したこと、コロナ等感染症が発生し、避難所において過剰な反応があり、職員だけでは対応困難で、医療等専門職の力を借りることになったこと、社協でボランティアセンターを開設していたが、NPO団体をどこまで信頼し、依頼してよいか悩ましいことなどがあった。

④復旧・復興計画の策定と住民との合意形成について

策定にあたり住民アンケートを実施した。

また、区長らとタウンミーティングを実施し、住民を対象としたオープンミーティングも実施した。

作成された概要版を全戸配布した。

⑤防災・減債に向けた今後の取り組みについて

全16地区で指定避難所がないところもあり、行政の支援が行き届かないところもあった。そのため、新たな地域防災計画において、今後は全16地区に指定避難所を設ける予定である。

さらに約300人～500人程度収容可能な、災害時にハブとなる避難拠点施設の整備を検討中であり、普段は何もないスペースで、太陽光など電源がなくても3日間は自立できる施設を検討しているが、平時の使い方をどうするか、難しい問題だと思っている。

やはり災害時には公助の動きは遅くなるため、自助共助が重要であり、全住民が自助共助を意識することが最も重要だと感じている。

それを踏まえて、志賀町には自主防災組織が40数組織しかないので強化していきたい。

⑥情報発信と住民とのコミュニケーションについて

多重化システムを採用しており、これは自動的に情報が届くプッシュ型で、365日情報が届くように整備されている。

⑦ペット飼育世帯の事前把握と避難所での対応について

犬は狂犬病の予防接種のため、ある程度事前に把握出来ていたが、その他のペットについては飼育世帯の事前把握はしておらず、今後も難しいと考える。

発災当初はペットも一緒だったが、JMATからペットは居住空間を切り離すべきとの指示があり、国へトレーラーハウスを要

望した。ただ、すぐには到着しないため、車庫の一部にテントを建てて凌いだり、猫の多頭飼育されている方などは車中泊を強いられることとなった。

⑧ペット用物資の備蓄と配布について

ペット用の備蓄はしていなかった。今後もペットフードの備蓄は、消費期限のこともあり、かなり難しいため、飼い主には最低3日分のペットフードは備蓄していただけるようお願いしている。

⑨避難所でのペット関連のトラブルと衛星管理について

トラブルは数件だったと聞いている。

定期的に民間事業者に委託して清掃等は行っていた。

⑩動物病院との連携体制について

動物病院がないので、保健所等と連携していた。

3 その他質疑応答内容要約

トイレの確保が最重要。

赤ちゃんの粉ミルクが困った。保育園開けて粉ミルク調達した。

学校は指定避難場所だったが、のちに学校を開かなければならないとなった時に、区分けされた避難所がなく、ペットの飼育に苦労した。

外国人トラブルはほぼなかった。

白山市は専門学校と連携してペット専用の避難所運営を考えているとのことだが、志賀町についてはトレーラーハウスで対応することとしている。

議会としては、災害対策本部には入れなかったため災害対策支援室を設置したが、議長室に待機を強いられるなど、あまり機能しなかった（BCP未設置）。

議員としては積極的に住民の意見を集約しに行き、適宜役場

に声を届けるべき（議長談）。

4 現地視察

富来小学校、仮設住宅（木造、プレハブ、トレーラーハウス）、災害ゴミ仮置き場（野球場）、公費解体が多い通り、仮設店舗（道の駅 とき海街道）

委員所感

< 豊田 >

能登半島地震において輪島市と並び震度7を記録した志賀町、とりわけ被害の大きかった富来地区の現場視察の中で、大災害時の水の確保やトイレ等の重要性を再認識するとともに、大きな被害を受けなかった原子力発電所においては「発電所は何も問題がありません」との住民への発信の重要性については、同じ立地自治体として大いに参考になった。

< 高城 >

自助共助の重要性を感じたとあり、自主防災組織を新たに立ち上げる取り組みや、全地区に指定避難所を設ける取り組みが挙げられていたが、敦賀市における指定避難所についても、やはり地区単位としての避難所の認識と防災計画の連動を強めなければならぬと感じた。

現地視察では、1年10か月が経とうとしている中で、未だに道路が波打ち、電柱が傾き、ブルーシートが並ぶ状況を見て、東北地方の復興を思い出してみても、半島かつ人口密集地が少ない地域ならではの復興の難しさを実感した。

< 馬淵 >

避難所開設で困ったことや苦勞したことまた、減災に努めるための有効な訓練やできる対策、揃えておくとよい備蓄品については。対応された職員から、特にトイレの確保やその後の排せつ物

の処理の問題、赤ちゃんの粉ミルクや乳幼児の製品の備蓄が難しいなど課題を教えていただき参考になりました。

<浅野>

R6.1.1の能登半島地震で被災された当時の現場に携わる職員の体験、その後今日の復興までの苦労された話を聞き、支援物資が早く届いても、被災者への配布の困難性、水や電気の使えない中での排泄物処理、寒さ対策、感染症対策の難しさがよく分かりました。

<大塚>

令和6年1月1日元旦、志賀町での地震の最初の情報は気象庁より地震の震度7と、津波警報の情報が発令されました。その時点から防災計画に基づく職員及び、議員の皆様の初動対応について貴重な体験を聞いた事と、合わせて実際の現場を見る事ができ非常に有意義でした。

<三田村>

備えることの重要性和、同時に難しさも痛感した。各種備えは当然であるが、地域組織などソフト面も考えると、防災に行き過ぎ、終わりはないと痛感した。仮設住宅については素晴らしいと感じる一方で、使い捨てはもったいないというのも正直なところである。

<橋本>

震度7という本震と度重なる強い余震によりあかほ甚大な人的・物的被害が発生した志賀町。被災から1年10ヶ月経った今も爪痕が残っており、完全復興までの難しさを感じました。また、自助公助の大切さ、備蓄用品の重要性の高い物や種類などを教えていただきましたので、参考にして備えていけるよう提言していきたいです。